

## 比較写真でみる間違いやすい野生きのこ

健全な森林ほど野生きのこはたくさん発生します。下記の7種類は特に間違いやすく、毎年95%前後の方が中毒をおこしており、この鑑識には特に注意が必要。

ウラボニホテイシメジ(食)



チャナメツムタケ(食)



ムキタケ(食)



ホウキタケ(食)



クサウラボニタケ(毒)



カキシメジ(毒)



ツキヨタケ(毒)



ハナホウキタケ(毒)

クリタケ(食)



ヤマドリタケモドキ(食)



タマゴタケ(食)



ニガクリタケ(猛毒)



ドクヤマドリ(毒)



ベニテングタケ(毒)

あるという方がいますが、現在ではその効果は認められていないようです」

木材の供給、水資源の涵養、大気の浄化、国土保全の機能を保ち、保健休養の場として生態系や社会を支えている森林は、山菜やきのこな

裏山で採取し、調べてみる  
約30種中、毒きのこ2種



実りの秋のきのこ狩りを楽しむ心得  
毒きのこの種類や迷信の真偽を伝授

森林を守り続けて60年余、山を知り尽くした林業経営者として、実りの秋を前に野生きのこの狩りを安全に楽しむ心得を説く。

ど山の恵みの宝庫でもある。その森林を守り続けて60年余、神奈川県相模原市の「株式会社高橋林業」の代表取締役高橋正二さんは、きのこ狩りが楽しめる実りの秋を前に知っておくべきことを、機会があるたびに伝えている。

「日本には、約4000種にのぼる野生きのこがあると知られていますが、裏山から採取してきた野生きのこを食べられるかどうか調べてみたところ、約30種のうち毒きのこは2種でした。カキシメジとクサウラボニタケです。きのこを食べる中毒を起した方たちの約7割は、この2種だったそうです。この2種には充分注意して下さい」

数多くの迷信の真偽確認  
繰り返される中毒に警鐘

高橋さんは野生きのこに関する迷信にも注意を促す。

「ナスと一緒に煮ると毒消し作用があると言われていますが、ナスにはそのような毒消し作用はありません

せん。縦に裂けるきのこは、食べられるという人がいますが、猛毒のカキシメジは縦にも裂けます。なので、これも誤りということになります。他にも、つばがあるのは食べられないといいますが、ナラタケというおいしいきのこにもつばがあり、これも誤りです。日本は世界でも有数の野生きのこの発生国であり、同時に野生きのこの好きの国民でもあります。それにもかかわらず、野生きのこに対する研究は海外の国々から比べて遅れています。そして、毒きのこの見分け方に関しては、いまだに数多くの迷信が根強く信じられ、毎年同じきのこによる中毒が、あとを絶たないというのが現状であり、非常に残念です」

また、高橋さんは、野生きのこの薬理効果についての情報も集めている。

「カワラタケという野生きのこは、ガンに効果があるといわれています。10gくらいの量を煎じて飲むわけですが、にがくてなかなか飲みません。サルノコシカもガンに効果が

きのこ狩りは楽しいが、危険も潜む。野生きのこについて、いろいろ情報を集め、専門家の指導や助言を受けながら、安全に楽しんでほしいというのが高橋さんの願いだ。

代表取締役 高橋正二氏

神奈川県出身。山梨県庁で30年間、林道の設計や測量に従事する。退職後、帰郷し、森林組合の参事を2年間務めて、林業経営の知識を深める。49歳で独立「高橋林業」を設立。経営基盤の強化に努めると同時に、手厚い福利厚生を整えて人材育成に注力、林業のイメージ刷新に意を注ぐ。



※写真  
丸囲みは「食べられるきのこ」  
四角囲みは「食べられないきのこ」

株式会社 高橋林業

☎ 042-689-2848  
☎ 042-684-9610  
📍 神奈川県相模原市緑区牧野8772  
✉ takahashi-forestry@honey.ocn.ne.jp